暖炉 wood stove

ーリフォームでゆったりスローライフはじめませんか？ー

揺らぐ炎 薪のパチパチ音
実用的な暖房としてだけではなく、インテリア性の高い暖房として 五年スローライフを実演する人々から改めて、癒しの効果があることで賑かなブームになっています

今回見学した
(有)日本暖炉
ー宇都宮市内ー

【歴史】火は昔から料理のため、暖を取るため、照明のために、長い年月をかけて家の中に取入れることが出来るようになりました。
まずは、小屋の真中に穴を掘り簡単な炉に火を入れることから始まり、煙突が作られるようになると、壁の方に移動してゆき、初期の暖炉が生まれました。
17世紀イギリスで煙突を煙く技術が進歩すると庶民の家の中にも暖房が急速に広まり、その後各国の建築・インテリア様式に合わせて進化してゆきました。

【ペチカ】ロシアでも代表的なペチカ。暖炉と同じと考えている方も多いのですが、暖め方が違います。ペチカは、レンガで作った炉を中心に部屋の間仕切壁をしかで作りそのレンガ壁の中に煙道を通過させ壁自体を暖める言わば、床暖房ならぬ壁暖房なのです。

【薪ストーブ】ベンジャミン・フランクリンが考えた鉄製の箱型ストーブ「ベンジャミンストーブ」が有名。基本的には密閉された鉄の箱の中で煙突を使い効率的に薪を燃焼させ鉄を温め放熱させる ➡ 現在の暖炉と基本的に同じ。
※本日見学した(有)日本暖炉では、暖炉と薪ストーブの明確な違いについては、曖昧な部分が多いとの事

今回見学した暖炉

ローディングドアが付いた密閉型スタイルの暖炉
現在の気密性が高い住宅では暖房本体に直接空気を取込み燃焼、煙突より排煙
▲室内に水蒸気発生源ないので結露抑制となる。
現在のFF型ストーブと同じ方式です。

暖炉自体の重量は、約150kg 耐用年数は100年、燃焼効率は、1台で50坪の部屋を暖める熱力がある。
施工費も1台設置で100万円前後が相場(煙突の太さ、建物の構造により異なる)
今、一番多く施工する方法として、
暖炉を利用することにより、煙突➡が通る部屋も合わせて暖めてしまう工法が多いそうです。
・2F煙突は、断熱材付のもので表面温度は、40度前後です。(薪燃焼量により異なる)

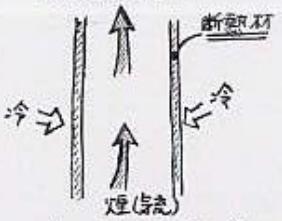
※煙突は必ず断熱材が入っているものをお使いください。

(有)アップル 北島

▲断熱材付
煙突

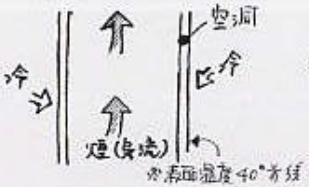
ー室内を汚さない暖炉設置のポイントー
暖炉の煙突内部では、上昇気流が発生しています。
室内を汚してしまうのは、その上昇気流が発生していないからなのです。
▲煙突は、断熱材付きのものを利用しましょう。
°上昇気流の発生しにくい煙突では、薪を燃焼させた後、煙内部表面にタール、油煙が付着しやすくなる。(週に1回程度必要となります。)
通常清掃は、4ヶ月に1度で済みます

【断熱材有】



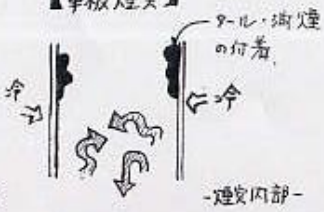
■外気に触れる部分は、適しています。
冷気が煙突内部に伝わりず上昇気流が続きます。

【空洞タイプ】



■お部屋内部に適しています。
煙突表面温度は、40度位です。
火傷の心配はありません。

【単板煙突】



■暖炉・薪ストーブには向いてません。
外気の冷温が煙突内部まで伝わり上昇気流を発生させません。
その結果、タール等が付着。

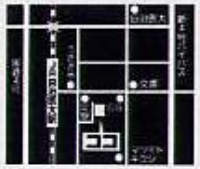
薪 ー最適な薪選びー

近所の雑木林で拾った小枝、お父さんの日曜大工でおた端材 乾燥状態が良ければ使用できます。

◦広葉樹
・ナラ ⇒ 薪として使うには良質で熱カロリーも高く燃焼しても、ヤニ・タールが少ない。
・カシ ⇒ 日持ちが良いが、ナラに比べ入手しずらい
・ツラカバ ⇒ 昔から薪として利用されている。油分が少なく薪としては最適 その皮は かまどの たきつけ としても利用されていた。

◦針葉樹
・スギ ⇒ 入手が簡単で間伐材などホームセンターなどで多く売られている。
・マツ ⇒ ヤニが多く燃焼時、煙突内にタールが付着しやすい。

良質な薪でも十分乾燥させ、利用すればメンテナンスも少なくてすみます。

スローライフにかかせない
暖炉・薪ストーブのご用命は➡

ECOBAU REFORM
リフォームアップル自治医大店
URL http://www.reform-apple.com
リフォームアップル自治医大店
0120-393-897
河内郡南河内町祇園1-20-1 〒329-0434
(自治医大駅東口・足銀すぐそば)
☎0285-44-8208 (fax共通)
ホームページで実例を多数ご紹介中。